

HP OMi Management Pack for Hadoop

ソフトウェアバージョン: 1.10

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によつてのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoftグループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。 <https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまなベスト プラクティス文書や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	6
このマニュアルで使われている略語	6
関連ドキュメント	7
ライセンス	7
第2章: OMi MP for Hadoop のインストールまたはアップグレード	8
インストールメディア	8
インストールの前提条件	9
ハードウェア要件	9
ソフトウェア要件	9
BSM サーバでのソフトウェア要件	9
OMi サーバでのソフトウェア要件	10
監視の前提条件	11
インストール時のチェックリスト	12
BSM サーバ用チェックリスト	12
OMi サーバ用チェックリスト	13
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	14
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	15
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール	15
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール	16
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	18
BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール	20
Linux BSM または OMi サーバの場合	20
Windows BSM または OMi サーバの場合	21
OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード	23
アップグレードに関するガイドライン	23
前提条件	23
OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 へのアップグレード	23
タスク 1: OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード	24
タスク 2: 管理対象ノードの CODA データベースのバックアップ	24
タスク 3: すべての管理対象ノードの監視の停止	24
タスク 4: OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 で作成された CODA データソースの削除	24
タスク 5: Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトのアンデプロイ	25
タスク 6: OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 からすべてのノードへの Hadoop 検出アスペクトの再デプロイ	25
タスク 7: [割り当ておよび調整] を使った、選択した割り当ての再デプロイ	25
タスク 8: Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトのデプロイ	26

タスク 9: 選択した割り当ての再デプロイ	26
ライセンスの適用	26
OMi MP for Hadoop のインストールまたはアップグレードの確認	27
第 3 章: 作業の開始	29
BSM コンソールでの作業の開始	29
タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加	29
タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ	29
タスク 3: 検出の確認	30
タスク 4: 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ	30
タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ	31
タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ	32
OMi コンソールでの作業の開始	33
タスク 1: OMi コンソールへのノードの追加	33
タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ	33
タスク 3: 検出の確認	34
タスク 4: 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ	34
タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ	35
タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ	36
ドキュメントのフィードバックを送信	38

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for Hadoop (OMi MP for Hadoop) は HP Operations Manager i (OMi) とともに動作し、Hadoop 環境および基盤 インフラストラクチャの監視を可能にします。OMi MP for Hadoop には、Hadoop の状況およびステータスを監視するための次のコンポーネントが含まれています。

注: コンポーネントの詳細は、OMi MP for Hadoop のオンライン ヘルプまたはオンライン ヘルプの PDF 版を参照してください。

- Hadoop 管理テンプレート
- Hadoop アスペクトおよびポリシーテンプレート
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- 状況 インジケータ (HI)
- イベント タイプ インジケータ (ETI)
- Hadoop 用 ダッシュボード
- ツール
- グラフ

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for Hadoop DVD
BSM DPS	BSM データ処理 サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイ サーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for Hadoop	HP OMi Management Pack for Hadoop

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for Hadoop の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンラインヘルプのPDF版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに1ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス5個、OMi MP for Oracle Database のライセンス10個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for Hadoop のインストールまたはアップグレード

この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for Hadoop のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for Hadoop のインストールメディアについて説明します。OMi MP for Hadoop は OMi MP for Hadoop DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。MPDVD および電子メディアは、英語ロケール環境に対応しています。

OMi MP for Hadoop DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for Hadoop] に移動します。 OMi コンソールの ? メニューから使用可能。 OMi コンソールから、 ? >[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for Hadoop] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> Hadoop 管理テンプレートの使用 Hadoop アスペクトおよびポリシーテンプレートの使用 インジケータ (HI、ETI) の使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	

ドキュメント	場所	目的
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> • 主要な機能 • インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、BSM (Linux および Windows) サーバおよび OMi (Linux および Windows) サーバでの OMi MP for Hadoop のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。また、Hadoop の監視を行うための前提条件についても説明します。

ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

OMi MP for Hadoop を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for Hadoop を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Hadoop をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*
HP RTSM	9.05 CP 11
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for Hadoop をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

BSM サーバ

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP RTSM	9.05 CP 11
OMi MP for Infrastructure	1.10

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

監視の前提条件

OMi MP for Hadoop を使用して Hadoop クラスターを監視するには、次の前提条件を満たす必要があります。

- 環境は、JMX が有効であること。JMX ポートを有効にし、Hadoop サービスを開始する必要があります。JMX ポートを有効にするには、**hadoop-env.sh** ファイルの編集が必要です。このファイルは Hadoop 構成ディレクトリにあります。次に、Hadoop 環境設定の例を示します。

注: Hadoop 環境設定の例

```
export HADOOP_CONF_DIR=/software/hadoop-1.0.3/conf

export HADOOP_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false -
Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false -
Dcom.sun.management.jmxremote.password.file=$HADOOP_CONF_
DIR/jmxremote.password"

# Command specific options appended to HADOOP_OPTS when specified

export HADOOP_NAMENODE_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote -
Dcom.sun.management.jmxremote.port=8004"

export HADOOP_SECONDARYNAMENODE_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote -
Dcom.sun.management.jmxremote.port=8005"

export HADOOP_DATANODE_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote -
Dcom.sun.management.jmxremote.port=8006"

export HADOOP_BALANCER_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote -
Dcom.sun.management.jmxremote.port=8007"

export HADOOP_JOBTRACKER_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote -
Dcom.sun.management.jmxremote.port=8008"

export HADOOP_TASKTRACKER_OPTS="-Dcom.sun.management.jmxremote.port=8009"

# Command specific options appended to HADOOP_OPTS when specified

export HADOOP_NAMENODE_OPTS="-Dhadoop.security.logger=INFO,DRFAS -
Dhdfs.audit.logger=INFO,DRFAAUDIT $HADOOP_NAMENODE_OPTS"

export HADOOP_SECONDARYNAMENODE_OPTS="-Dhadoop.security.logger=INFO,DRFAS-
Dhdfs.audit.logger=INFO,DRFAAUDIT $HADOOP_SECONDARYNAMENODE_OPTS"

HADOOP_DATANODE_OPTS="-Dhadoop.security.logger=ERROR,DRFAS $HADOOP_DATANODE_
OPTS"
```

```
HADOOP_JOBTRACKER_OPTS="-Dhadoop.security.logger=INFO,DRFAS -
Dmapred.audit.logger=INFO,MRAUDIT -
Dhadoop.mapreduce.jobsummary.logger=INFO,JSA $HADOOP_JOBTRACKER_OPTS"

HADOOP_TASKTRACKER_OPTS="-Dhadoop.security.logger=ERROR,console -
Dmapred.audit.logger=ERROR,console $HADOOP_TASKTRACKER_OPTS"s
```

- NameNode が動作している管理対象ノードのHadoop 設定ディレクトリに、スレーブおよび yarn-site.xml ファイルのコピーが存在する必要があります。これは、RTSM で Hadoop トポロジを更新するために必要です。
- 標準パス (例: usr/lib/hadoop) に Hadoop がいない場合、パスを (hadoop ホーム)/bin に設定する必要があります。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for Vertica を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用 チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for Vertica を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用 チェックリスト](#)」を参照してください。

BSM サーバ用 チェックリスト

OMi MP for Hadoop のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。
BSM バージョン 9.20 および BSM 9.23 以上の Service Pack のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」と「最新の BSM 9.2x マイナーマイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	「 Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール 」の項を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Hadoop 1.10 のインストール または OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード	「 BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール 」の項を参照してください。 または 「 OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード 」の項を参照してください。
ライセンスの適用	「 ライセンスの適用 」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi サーバ用 チェックリスト

OMi MP for Hadoop のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に実行します。

タスク	参照先
OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 のクリーンアップ	OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 がすでにインストールされている場合は、『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure バージョン 1.00 の削除」を参照してください。
OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール	『OMi Management Pack for Infrastructure インストールガイド』の「OMi MP for Infrastructure 1.10 のインストール」を参照してください。
OMi MP for Hadoop 1.10 のインストール または OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード	「 BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール 」の項を参照してください。 または 「 OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード 」の項を参照してください。
ライセンスの適用	「 ライセンスの適用 」の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注: BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for Hadoop をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この

追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新は MPDVD に収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「[一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-content-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の `opr-config-content-server.war` ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-content-server.war` ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. `HPOprMA_update.zip` を一時フォルダに展開し、`opr-config-content-server.war` を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい `war` ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の `opr-config-server.war` ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:


```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps  
  
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps  
  
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール

OMi MP for Hadoop を BSM サーバ (Linux または Windows) または OMi サーバ (Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for Hadoop を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 にアップグレードする場合は、次の項をスキップできます。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for Hadoop がすべての BSM サーバ (BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログインし、**[管理] > [セットアップと保守] > [サーバデプロイメント]** に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Hadoop を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログインします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。
3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Hadoop をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for Hadoop はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Hadoop のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for Hadoop を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンド

を実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i
英語以外の DVD	cscript /nologo mpinstall.vbs -i	cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for Hadoop をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

-i: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for Hadoop のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード

ここでは、OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレードについて詳しく説明します。OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 がない場合、この項をスキップして OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 をインストールできます。詳細については、「[BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール](#)」の項を参照してください。

OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 にアップグレードする前に、インストールおよび監視の前提条件が満たされている事を確認する必要があります。詳細については、「[インストールの前提条件](#)」を参照してください。

アップグレードに関するガイドライン

次の一覧に、アップグレードに関するガイドラインを示します。

- 既に OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 を使用して管理しているノードは、アップグレード後もそれまでと同じように動作します。
- OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 のコンポーネントは BSM サーバでも引き続き使用できます。
- BSM サーバのデータのバックアップは不要ですが、管理対象ノードのデータはバックアップする必要があります。
- 要件によっては、管理対象ノードを OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 にアップグレードできます。

前提条件

注: 次の項目で、管理対象ノードとはアップグレードする必要のある Hadoop 管理対象ノードを指します。

OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 にアップグレードする前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- BSM がサーバで正常に動作している
- OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 がインストールされている
- OMi MP for Hadoop 1.0 がデプロイされ、CODA が管理対象ノードで動作している

OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 へのアップグレード

BSM サーバと管理対象ノードでアップグレード手順を実行する必要があります。

タスク1: OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 へのアップグレード

OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 を BSM サーバにインストールできます。詳細については、「[BSM または OMi での OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 のインストール](#)」の項を参照してください。

タスク2: 管理対象ノードのCODA データベースのバックアップ

後で使用できるように CODA データベースのデータを保持するには、SHR Content Pack for Hadoop を使用して CODA データベースのデータを収集します。SHR Content Pack for Hadoop はデータを長期にわたって保持できるように設計されています。詳細については、SHR Content Pack for Hadoop のマニュアルを参照してください。<https://hpln.hp.com/group/hadoop-content-service-health-reporter> から『SHR Content Pack for Hadoop User Guide』をダウンロードできます。

タスク3: すべての管理対象ノードの監視の停止

管理対象ノードの監視を停止するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[アプリケーション] > [オペレーション管理]** をクリックします。[Event Perspective] ウィンドウが表示されます。
2. [View Explorer] ペインで、ドロップダウンリストから **[Hadoop トポロジ]** ビューを選択します。ビューに関連付けられた CI が表示されます。
3. Hadoop クラスタ CI を展開し、管理対象ノード CI を選択します。
4. Hadoop 管理対象ノード CI を右クリックし、**[ツールを起動]** を選択します。
5. **[Hadoop モニタの停止]** ツールを選択します。[プレビュー ツール実行] ウィンドウが表示されます。
6. **[プレビュー ツール実行]** タブで、**[ツールの実行]** をクリックします。

注: [Hadoop モニタの停止] ツールを各ノード CI で実行する必要があります。

タスク4: OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 で作成された CODA データソースの削除


OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 で作成された CODA データソースを削除するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[アプリケーション] > [オペレーション管理]** をクリックします。[Event Perspective] ウィンドウが表示されます。

2. [View Explorer] ペインで、ドロップダウンリストから [Hadoop トポロジ] ビューを選択します。ビューに関連付けられた CI が表示されます。
3. Hadoop クラスター CI を展開し、管理対象ノード CI を選択します。
4. Hadoop 管理対象ノード CI を右クリックし、[ツールを起動] を選択します。
5. [Hadoop 監視のデータソースを削除します] ツールを選択します。[プレビュー ツール実行] ウィンドウが表示されます。
6. [プレビュー ツール実行] タブで、[ツールの実行] をクリックします。

注: [Hadoop 監視のデータソースを削除します] を各ノード CI で実行する必要があります。


タスク 5: Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトのアンデプロイ

1. BSM コンソールで [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。
2. Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトを選択し、 をクリックします。

タスク 6: OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 からすべてのノードへの Hadoop 検出アスペクトの再デプロイ

Hadoop 検出アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 7: [割り当ておよび調整] を使った、選択した割り当ての再デプロイ


1. BSM コンソールで [管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [割り当ておよび調整] をクリックします。
2. [ビューの参照] タブで、ドロップダウンリストから Hadoop トポロジ ビューを選択します。
3. Hadoop クラスター CI を展開し、管理対象ノード CI を選択します。[割り当て] ペインに、割り当てられた項目のリストが表示されます。
4. [割り当て] ペインで [Hadoop ディスカバリ] を選択し、 [選択した割り当てを再デプロイ] をクリックします。

タスク 8: Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトのデプロイ

管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。

Hadoop アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 9: 選択した割り当ての再デプロイ

1. BSM コンソールで **[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[割り当ておよび調整]** をクリックします。
2. **[ビューの参照]** タブで、ドロップダウンリストから Hadoop トポロジビューを選択します。
3. Hadoop クラスタ CI を展開し、管理対象ノード CI を選択します。割り当てペインに、割り当てられた項目のリストが表示されます。
4. **[割り当て]** ペインで Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトを選択し、 **[選択した割り当てを再デプロイ]** をクリックします。Hadoop

注: Hadoop MP 1.1 にアップグレードした後、BigData 管理構成フォルダーの下に Hadoop 構成フォルダーが期待どおりに作成されません。必要に応じて、Hadoop 構成フォルダーを BigData 管理構成フォルダーの下にドラッグアンドドロップできます。構成フォルダの場所は OMi MP for Hadoop の実行時の機能に影響しません。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。


注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。

新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. **[ライセンス管理]** に移動します。

BSM で **[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[セットアップと保守]** > **[ライセンス管理]** をクリックします。

OMi では、**[管理]** > **[セットアップと保守]** > **[ライセンス管理]** をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。
2.  をクリックして **[ライセンスの追加]** ダイアログボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティブ化されない場合、ステップ 3 を実行する必要があります。

3. (オプション)ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

OMi MP for Hadoop のインストールまたはアップグレードの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for Hadoop のインストールの確認について説明します。

OMi MP for Hadoop のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Hadoop** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for Hadoop** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -  
1
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

この項では、Hadoop 環境を監視するための OMi MP for Hadoop のコンポーネントのデプロイについて手順を追って説明します。Hadoop のイベント、状況、およびパフォーマンスの各パースペクティブへのアクセスと表示方法についても説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for Hadoop を使用して Hadoop 環境を監視する手順を、順を追って説明します。OMi MP for Hadoop バージョン 1.00 から 1.10 にアップグレードした場合は、次のタスクをスキップできます。OMi MP for Hadoop バージョン 1.10 をインストールした場合は、次のタスクを実行する必要があります。

タスク 1: BSM コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、BSM コンソールにプロキシ ノードを追加してください。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]


2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、* をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新しく作成されたノードは、ランタイム サービス モデル (RTSM) の構成アイテム (CI) インスタンスになります。

注: HP Operations Agent が稼働するプロキシ ノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ

環境内の Hadoop CI を検出するには、次の手順に従って CI に Hadoop 検出アスペクトをデプロイする必要があります。

1. [管理 テンプレート および アスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理 テンプレート および アスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [BigData 管理] > [Hadoop] > [アスペクト]
3. [アスペクト] フォルダでデプロイする **Hadoop 検出 アスペクト** をクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブで [CI] をクリックして [次へ] をクリックし、[必要なパラメータ] に進みます。
5. [必要なパラメータ] タブで [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] タブに進みます。
6. [すべてのパラメータ] タブで [次へ] をクリックし、[構成オプション] タブに進みます。
7. (オプション) [構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は [割り当てオブジェクトの有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. [完了] をクリックします。

注: Hadoop サービス検出アスペクトをデプロイした後、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」で始まるメッセージが表示されます。[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ] を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。

タスク3: 検出の確認

Hadoop サービス検出アスペクトをデプロイした後、トップビューに CI が表示されていることを確認する必要があります。

トップビューの CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで [MyBSM] をクリックします。
2. ドロップダウンリストから [トップビュー] を選択します。[トップビュー] ページが表示されます。
3. [トップビュー] ページで、**Hadoop_Topology** ビューを選択します。トップビューに CI が表示されています。

タスク4: 管理 テンプレート または アスペクト のデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、Hadoop 管理テンプレートを CI にデプロイできます。詳細については、「[タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、Hadoop アスペクトをデプロイできます。詳細については、「[タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注: 基本 Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトをデプロイする前に、Hadoop 検出アスペクトを使用してすべての管理対象ノードで Hadoop CI を検出する必要があります。

タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Hadoop サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


Hadoop 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [BigData 管理] > [Hadoop] > [管理テンプレート]

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] フォルダでデプロイする管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。


5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。


6. **[すべてのパラメータ]** タブで [アプリケーション インスタンス (NameNode | Resource Manager | JobTracker | Secondary NameNode)] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログボックスが開きます。Hadoop マスタの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_MasterService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. **[OK]** をクリックします。

7. **[すべてのパラメータ]** タブで [アプリケーション インスタンス (DataNode | NodeManager | TaskTracker)] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログボックスが開きます。Hadoop スレーブの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_SlaveService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。






- c. **[OK]** をクリックします。

8. **[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Hadoop サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

各 Hadoop アスペクトを CI にデプロイするには、次の手順を実行します。

1. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインを開きます。
[管理] > **[オペレーション管理]** > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**
2. **[構成フォルダ]** ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > **[BigData 管理]** > **[Hadoop]** > **[アスペクト]**
3. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** フォルダでデプロイするアスペクトをクリックし、 をクリックします。**[割り当てとデプロイ]** ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。
6. **[すべてのパラメータ]** タブで **[アプリケーション インスタンス (NameNode | Resource Manager | JobTracker | Secondary NameNode)]** パラメータを選択し、 をクリックします。**[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス]** ダイアログボックスが開きます。Hadoop マスタの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。
 - a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_MasterService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
7. **[すべてのパラメータ]** タブで **[アプリケーション インスタンス (DataNode | NodeManager | TaskTracker)]** パラメータを選択し、 をクリックします。**[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス]** ダイアログボックスが開きます。Hadoop スレーブの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。
 - a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_SlaveService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
8. **[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

OMi コンソールでの作業の開始


ここでは、OMi MP for Hadoop を使用して Hadoop 環境を監視する手順を、順を追って説明します。

タスク1: OMi コンソールへのノードの追加

監視を始める前に、OMi コンソールに CI を追加する必要があります。

1. OMi コンソールから **[モニタ対象ノード]** ペインを開きます。

[管理] > **[セットアップと保守]** > **[モニタ対象ノード]**

2. **[ノードビュー]** ペインで **[事前定義済みのノード フィルタ]** > **[モニタ対象ノード]** をクリックし、 をクリックしてから、**[Computer]** > **[Windows]** または **[UNIX]** をクリックします。**[モニタ対象ノードの新規作成]** ダイアログボックスが表示されます。
3. ノードの **[プライマリ DNS 名]**、**[IP アドレス]**、**[オペレーティングシステム]**、**[プロセッサアーキテクチャ]** を指定し、**[OK]** をクリックします。

新しく作成されたノードは、ランタイム サービス モデル (RTSM) の構成アイテム (CI) インスタンスになります。

注: HP Operations Agent が稼働するプロキシノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク2: Hadoop 検出アスペクトのデプロイ


環境内の Hadoop CI を検出するには、次の手順に従って CI に Hadoop 検出アスペクトを NameNode サービスが動作している Name Node CI にデプロイする必要があります。

1. **[管理テンプレートおよびアスペクト]** ペインを開きます。

[管理] > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [BigData 管理] > [Hadoop] > [アスペクト]

3. [アスペクト] フォルダでデプロイする **Hadoop 検出アスペクト** をクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで **[CI]** をクリックして **[次へ]** をクリックし、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。
6. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
7. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
8. **[完了]** をクリックします。

注: Hadoop サービス検出アスペクトをデプロイした後、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」で始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理] > [監視] > [デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク3: 検出の確認

Hadoop サービス検出アスペクトをデプロイした後、[360° View] に CI が表示されていることを確認する必要があります。

[360° View] の CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、**[ワークスペース] > [マイ ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View]** をクリックします。
2. [360° View] ページで、**Hadoop_Topology** ビューを選択します。[360° View] に CI が表示されています。

タスク4: 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトを CI にデプロイできます。詳細については、「[タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、Hadoop アスペクトをデプロイできます。詳細については、「[タスク 4b: Hadoop アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

注: 基本 Hadoop 管理テンプレートまたは Hadoop アスペクトをデプロイする前に、Hadoop 検出アスペクトを使用してすべての管理対象ノードで Hadoop CI を検出する必要があります。

タスク 4a: 基本 Hadoop 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Hadoop サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 4: 管理テンプレートまたはアスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


基本 Hadoop 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [BigData 管理] > [Hadoop] > [管理テンプレート]

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] フォルダでデプロイする基本 Hadoop 管理テンプレートをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成アイテム]** タブで管理テンプレートを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。


5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。


6. **[パラメータ サマリ]** タブで [アプリケーション インスタンス (NameNode | Resource Manager | JobTracker | Secondary NameNode)] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログボックスが開きます。Hadoop マスタの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_MasterService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. **[OK]** をクリックします。

7. **[パラメータ サマリ]** タブで [アプリケーション インスタンス (DataNode | NodeManager | TaskTracker)] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログボックスが開きます。Hadoop スレーブの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**[Hadoop_SlaveService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. **[OK]** をクリックします。

8. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。

9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できま

す。

10. **[完了]**をクリックします。

タスク 4b: Hadoop アスペクト のデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、Hadoop サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 4: 管理 テンプレートまたはアスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


Hadoop アスペクトをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理 テンプレート およびアスペクト]


2. [構成 フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成 フォルダ] > [BigData 管理] > [Hadoop] > [アスペクト]

3. [管理 テンプレート およびアスペクト] フォルダでデプロイするアスペクトをクリックし、をクリックします。
[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。

4. **[構成 アイテム]** タブでアスペクトを割り当てる CI をクリックし、**[次へ]** をクリックします。


5. **[必要なパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。


6. **[パラメータ サマリ]** タブで [アプリケーション インスタンス (NameNode | Resource Manager | JobTracker | Secondary NameNode)] パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンス パラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログ ボックスが開きます。Hadoop マスタの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、をクリックします。たとえば、**[Hadoop_MasterService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. **[OK]** をクリックします。

7. **[パラメータ サマリ]** タブで [アプリケーション インスタンス (DataNode | NodeManager | TaskTracker)] パラメータを選択し、をクリックします。[インスタンス パラメータの編集: アプリケーション インスタンス] ダイアログ ボックスが開きます。Hadoop スレーブの従属パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

- a. 従属パラメータを選択し、をクリックします。たとえば、**[Hadoop_SlaveService_Availability の重要度]** パラメータを選択できます。

- b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。

- c. **[OK]** をクリックします。

8. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成 オプション]** タブに進みます。

9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。**[割り当ておよび調整]** ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for Hadoop 1.10)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

